

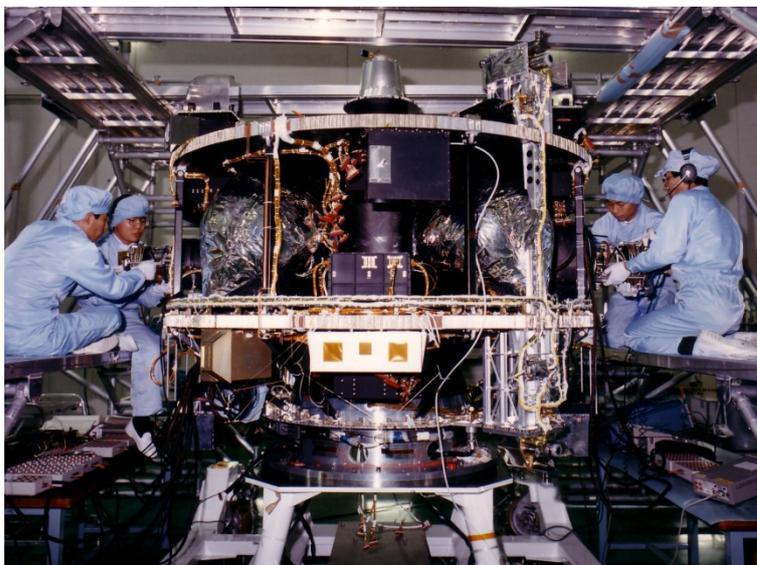
## 科学衛星の心意気！

NEC 永治 康彦 (ながや やすひこ)

2020年のオリンピック招致は、「お・も・て・な・し」で獲得したと喝采を浴びました。それでは、GEOTAIL 衛星の大成功の要因は何だったのかと思うに、プロジェクトメンバー同士の「お・も・い・や・り」ではなかったかと、23年前の記憶を辿りながら、思い出しております。

当時、GEOTAIL の宇宙研の先生方はそうそうたるリーダー達揃いでした。NEC システム設計チームも逸材ばかりで、人間的にも技術的にも優秀な方ばかりで、我々現場の人間も強く影響を受けたものです。一噛み試験では、システム・構造設計・製技・ハンドリング・検査と知恵や力を出し合って、安全な作業工程の工夫や、作業効率をあげる治具の工夫をするなど、互いのスキルを出し合っていました。電気 I/F 確認試験でも、検査員同士のダブルチェックはもちろん、技術者とのクロスチェックを行い、試験目的を理解してのミスが無い確実な試験を心掛けていきました。また、先生方やメンバー同士、海外のエンジニア達とも飲みにケーションを通じて、絆を深めあったこともありました。試験期間中、先生方の思いや、各メーカー方の心意気を日々接するうちに、GEOTAIL チームはお互いを尊敬して、思いやる一つの家族になったようでした。

GEOTAIL の一次噛み合わせ風景 (MAST 取付)  
芸術的な電気計装に多くの観測機器が取付けられています。全て手作りのはんだ付け仕様です。(いやー、本当に大変でしたが、達成感がありました。)



GEOTAIL チームは、それぞれのエキスパートが、各自の担当作業で線を引くのではなく、担当外の作業にも、どうすれば協力できるかを常に考えて行動していたと思われま。まさに「おもいやりの精神」で、「いい衛星を作ろう」という目標の元に、メンバー全員が協力しあっていたからではないでしょうか。これは当然のことのように思われますが、なかなか自分の仕事や責任を増やすような行動は躊躇してしまうものです。

このような考え方は、科学衛星のプロジェクトに共通な DNA であり、「科学衛星の心意気」だったのかも知れません。

その成果は、Launch Site Operation (LSO) 班の活躍を筆頭に、射場でのスケジュール進行が群を抜いていたらしく NASA から「Group Achievement Award (GEOTAIL)」を受賞、GEOTAIL チームは、最もモラルの高いチームであると賞されたと聞き、とても誇りに思ったものです。

今も現役の宇宙ラボとして活躍する GEOTAIL、このような素晴らしいプロジェクトを発案、推進頂きました西田先生に感謝いたしますとともに、この度の「瑞宝重光章」のご受章を心からお喜び申しあげたいと思います。